



2009. May
第 2 号

日本演出者協会 協会誌「ディー」

題字 千田是也

新劇の代表的演出家・千田是也氏の文字をロゴデザインに使用。

(資料提供／早稲田大学坪内博士記念演劇博物館)

若手演出家コンクール2008

特別対談『知的な作業のスリル』

市原悦子×宮田慶子



Contents ■

- | | |
|---|---|
| ■若手演出家コンクール 2008 | ■日本演出者協会と韓国演劇交流の現在……19 |
| 最優秀賞決定!! 智春インタビュー ……2 | ■【在外研修報告】羊屋白玉……15 |
| 優秀賞インタビュー ……3 | ■若手演出家コンクール 2007 最優秀賞
あごうさとしインタビュー……15 |
| 公開審査・講評 ……4 | ■理事会報告 ……11 ■部会だより……14 |
| ■対談「知的な作業のスリル」市原悦子 × 宮田慶子……5 | ■新入会員紹介……16 ■退会者・訃報……17 |
| ■国際演劇交流セミナー 2008
(コロンビア・ドイツ・ノルウェー・ウクライナ) ……8 | ■各地域活動通信……18 |
| ■演出家養成セミナー 2008 (愛知・札幌・横浜) ……10 | ■演出者ワンポイントレッスン……13 |
| ■アンケート「ダメ出しについて」「演出家の立場について」……12 | ■日本演出者協会 事業担当 ……14 |
| | ■編集後記……20 |

日本演出者協会会誌「D」(ディー) 第 2 号 定価 = 無料 2009 年 5 月 1 日発行 平成 20 年 11 月創刊(毎年 2 回発行)

【発行人】和田喜夫(理事長) 【編集人】篠崎光正(広報部長) 【編集委員】篠本賢一・長沢けい子・三谷麻里子・平尾麻衣子・小川功治朗・大杉良
【対談編集】鶯谷憲樹 【対談写真】宮内勝 【発行所】日本演出者協会 東京都新宿区西新宿 6 丁目 12 番 30 号芸能花伝舎 3 F (〒160-0023) 電話 03-5909-3074
【編集・制作】日本演出者協会広報部協会誌「D」編集委員会 【題字】千田是也「Marionetto」より 【印刷所】有限会社一光堂印刷 【表紙デザイン】前嶋の
【本文デザイン】奥秋圭

若手演出家コンクール 2008 最優秀賞決定!! 観客賞ダブル受賞

※最終審査の全4作品を観劇した観客の投票により決定



智春 (チキキ*パークウ) 作品名:『カンパニーマン』



最優秀賞
智春 ちはる
インタビュー

サークス芸をベースに幅広い表現方法を学び、パフォーマーとしても活躍。

応募動機——すばり「東大」記念受験」です。3月に初めて演出作品を創ったんですが、大道芸の世界ではないところ、演劇の世界でどう評価されるのか、どんなアクリションがあるのか知りたかったので。

作品創りについて——セリフでは表せない「肉体の叫び」みたいなものを表現したいです。大道芸の世界では、道を歩いている人を立ち止ませ、1対1で裸の自分をさらけださなければならぬんです。でも言葉を使わなくとも、全く知らない人とつながれる瞬間がある。それを劇場に持つて行くことはできないのか、と思って演劇作品を創りました。

これから演劇(活動)について——まずは日本のサークスアーティストの、技術は一流だが発表する場がない、就職口がない、そんな問題を解消させたいです。日本のサークスは序列

が厳しく、団や学校も横のつながりがない。このままのスタイルでは衰退の一方向です。

またヌーボーシルクのような新進系サークスを一般に広げたり、どんどん他ジャンルと交流して新しい事を発信したり、後進の道を開きたいと思っています。今回これが若いアーティストのいい刺激になればと。また、サークスアーティストの演出を勉強する軌跡を作りたいですね。

協会にのぞむこと——お互いワークショップを行って情報交換をし、ジャンルの垣根をとっています。

月1回、演劇も大道芸も出演する短編作品発表の場を提供するなど、色々なジャンルを融合させたイベントを企画・運営して欲しいと思います。大変だったこと——出演者はみなそれぞれの分野のスペシャリストだけど、言ってみれば言葉人種が違う人ばかり。作品に対する考え方も違う。だからまず共通言語を探すことからはじめました。脚本も自分で書きましたが、まず技術の練習をし、表現について考え、つなぎやキャラクターを考えるという段階を追いました。

コンクール概要

■第1次審査

73名の応募者に対し、ビデオ・書類審査を実施。

■第2次審査

(2008年9月1日～11月30日)
第1次審査で選出された15名の演出家による上記期間に行われる公演（または公演に準ずる形での通し稽古）を、審査員2名以上が観劇し、審査。

■最終審査

(2009年3月3日～8日)
最終選出された4名が優秀賞受賞。
下北沢「劇」小劇場にて一般公開で競演。1時間の作品を、2時間の仕込み・1時間のバランス時間で上演。最終選考と公開審査が行われた。【最優秀賞】賞金50万円。
さらに日本演出者協会協力の記念公演を実施。

創作にあたっては①どういう動きをするかといふムードメントの表②演奏者と出演者をどのように絡めるかというイメージボード③大まかなストーリー（小説化）④段取り表を作成し、その4つをうまくからめるという作業をしました。

演出のポイント——各出演者に、アーティストとしてのキャラクターを削りナチュラルな自分を探させました。

そうしないと段取りだけを非常にうまくこなしてしまふので、技術にいかに感情を入れるか、表現としてどのようにするのか、シンプルな自分になることを追及しました。

優勝者コメント——この挑戦がどう未来を開いていくのか、大きな賭けでした。一つ間違えば評判を落とし、大道芸の世界では仕事が来なくなるかもしれないというシビアな状況の中、何かを創り出したいというエネルギーで出演者が協力し、信じついて来てくれたこと、またこういう場を与えてくださった事を本当に感謝しています。最優秀賞を受賞したことで、どういう作品を今後創っていくかなければならないか真剣に考えています。



優秀賞・審査員特別賞
すがの公
 〔劇団SKグループ〕
 作品名『アーティスト・アーティスト』
 (作)すがの公)



応募動機——関西でも受賞者が出ているので、ぜひ自分も挑戦したいと思いました。3年目の正直で最終審査まで残ることが出来、大変嬉しいです。

協会の印象——コンクールもそうですが演劇大学、国際演劇交流セミナーなど色々な事業を展開していて、演劇界を盛り上げてくれる頼もしい存在だと思っています。

応募動機——お芝居って芸術に分類されるじゃないですか。(ばかばかしいものや、エンターテイメントとして芝居やってきて、芸術として芝居を創ろうと思った事はないんですよ。でもそれだったら、芝居やってんのに芝居やってないことになるじゃないですか。自分の作品に芝居的意味があるのか、どういう価値があるのか確かめたいと思って。

今回大変だったことは?——基本的制約の時間ですかね。セットなしでやる実力が役者ないので、目でもわかる情報として建て込んでますけど。本番よりも仕込みとバラシのことしか気にならなくなつて、「次何やるんだっけ?」ってよくわからなくなりましたね。僕らが時間をオーバーして失格になるのはかまわないんだけど、僕らのせいで後ろの劇団に迷惑がかかると思うと、お腹がいたくなりました。やりたいのは本番じゃなくて、この場からハケたいと思つてました。

芝居の原点は?——僕、本当は本が書きたいんですよ。子供のころ漫画家になりたくて、でもなかなか描けなくて、人を使つたらプレシャーによつてなのが台本は書けたんですよ。「ああ、台本はふきだしの中を並べればいいのか」つて。でも、一番の原点は子供のころ「絵が上手いね」って褒められたことじやないんですかねえ。やはりお客様に褒められたい、それしかないです。審査員なんかに褒められた日には「ほんとにい?」って疑つやうけど。

【すがの公】98年、大学在学中に劇団を旗揚げ。札幌を拠点に年に3、4回のペースでオリジナル作品を上演。08年劇団の休止を発表し、充電期間に入る。テレビドラマのシリオも手がける。



優秀賞
小嶋一郎
 〔日劇団スカイフィッシュ〕
 作品名『適切な距離』(作)松山賢史)
 (作)秋原伸次)



応募動機——別の演劇コンクールに出品したんですけど、それが準優勝だったんです。それが悔しくて応募してみたら皆さんに面白がつもらえた、という流れです。

協会の印象——流山児さんが仕切つてたんだろうなと思ってます(笑)。(ここ)で取材現場に居合わせた流山児氏が否定)ああでも、そうやって世代が違う方との交流ができることは魅力だと思います。

今回のポイント——笑いに特化したというか、コントです。個人的にあまりアジテートすることもないで…。舞台上の蛍光灯は意外に明るくて置き場所が限られてしまつて。一本減らしたんですけど。僕ら高校演劇のつもりで実はやつててるところがあつて、そういうティストもありなのかなと思います。

【旧劇団】とはなぜ?——演劇するのに集団は必要だと思いますが、劇団制は現代において有効なのかと。私たちは何かと問われれば創作集団です。毎回作品によって出演者を募集しています。

コンクールについて——審査員の数が多いのですが、5人ぐらいに絞つてもいいと思いました。せつかも審査を公開でやるのなら、地方演劇人の為にもぜひYouTubeに動画をアップして欲しいですね。

【小嶋一郎】「体と声の関係」「役柄と役者の関係」を探り、近年は「小説の演劇化」に焦点を定めて演出を行つて。09年4月から座・高円寺「劇場創造アカデミー」に在籍。現在、学生。



優秀賞
福正大輔
 〔劇団ドロブ〕
 作品名『新・月の影で息継ぎを』
 (作)秋原伸次)



【福正大輔】演出、俳優、M.C.外部団体の演出多数。学芸大学付属小金井中学校英語劇クラス。武藏野市立桜野小学校・境南小学学校などで演劇表現、演技、表現活動の指導を行つて。現在、学生。

対談 知的な作業のスリル 市原悦子×宮田慶子

俳優座出身の女優・市原悦子。青年座の演出家・宮田慶子。

新劇の薰陶を受けたおふたりの視線は、興味深い点で交じり合つた。

奔放な衝動と醒めた情緒。相反する感情が同居するスリル。

演劇の中にある知的遊戯の本質とその伝承について考える対談。

市原悦子さんと宮田慶子さんの出会いは十一年前。新国立劇場の企画公演『ディア・ライア』の演出だった。渡辺浩子さんが急逝されて、宮田さんがその任を引き継いだことがきっかけである。大変だった稽古中、市原さんは宮田さんに恩師・千田是也の像を重ねたという。

市原■（私は千田先生に）なんにも言われないんです。放つておかれるとどうか。無視なんです（笑）。涙を流して『千鳥』をやつたときはそっぽ向かれました。ぜんぜん見てくれませんでした。ああ、演出家の前で涙流しちゃいけないんだなと思いました。

宮田■なるほどね。

市原■千鳥が、死んだお母さんの幻に「千鳥」と呼ばれる「はいー」と返事をするところ。作家の田中千夫先生から「はいー」の「いー」を半音ずつ上げて「いーいー」と云つたりなどダメ出しされて、その音をこいねにたどると、ばかみたいに涙が出てくるんです。若かったから。そこへ来ると、泣くまじと思つても音に刺激されて涙が出てくるんです。そうすると千田先生はよそ向いちゃうんですね。なぜだらうつて……分からなかつた。そうだ、涙を流しちゃいけないんだって。それからは、もう本当に泣くまいと決めましたね。テレビでも、極力泣かないうようにしています。

宮田■面白いですね。よくわかる気がします。

市原■千田先生はやりぱり師ですね。どうじてもね。みよ

うちくりんで。きょっとしますよね。思いつかないような表現をしたり演技もつけます。お転婆な役をやつたときに、そうとう奔放にやつたんですけど、それでも「こからばーんつて来い」って言つんですね（椅子の背もたれの上を飛び越せという意味）。何も言つてくれないから、あれやこれや、いろいろうわで答えてきてやりますでしょ。そつするとかよつと見ててくれて。最後には「まあいいから、早くそれやって引っ込め」って言つた。テンポ出せって。私も、ぐちゃぐちゃやってるのがいけないと思って、どんどんやることやって早く引っ込む。そういうこともその一言で植えつけられましたね。



『知的な作業のスリル』 市原悦子 × 宮田慶子



宮田■ 独特のおっしゃり方ですね。役者さんが自分の情緒に負けるところとか、ひとりながら演技をするところに、「バツ」と云ふことがありますね。

市原■ そういうの。「三文オペラ」の恋の歌もね。丘の恋心を歌つてしょ。そつしたり「恋は苦しいんだよー」って。『オフィーロ』の狂乱の場では、私の髪飾りを見た「すぐ花をつけたがる!」って言わされました。

宮田■ そうこうしてひとつのとつぜんぶ覚えて。

市原■ 「せんぶ」入っています。忘れないでしょ、その言い方が「キツ」とします。でも私ね、千田先生のそばで私語をしたり仲良くなれません。ああいう入って近寄れない稽古場だけの師なんですね。

発想の驚き、日常の中の限界

市原■ 私アレジで「ラマで弁護士やつしたんだよ。衣装に真っ赤なスーツ、赤むね、ものすじい赤を選んで行ったんだよ。監督はちょっと足込みされたんだよけじ、監修の弁護士の先生が「あなた、よくいいう衣装選んだわね」って。いつも着るんですよって。だいたいみんな紺とか黒とかを衣装として選ぶんですけど、これは勝負服です。勝負の色なんだよ。最終弁論でね、検察側を目の前にして何ページかとくじりとしゃぐる時

ね、つい。

宮田■ (拍手) やつはせつねえ! 事実はあらうぢやね!

市原■ 事実はすうじでしょ(笑)。

宮田■ それとも、ちゃんと突っ込んで行けぬうつた側のエネルギーがないといけませんね。それはある意味リアリズムなんですね。

市原■ そういうことなのね。んふふ。

宮田■ 演劇にはじめから妙なジャンル分けがあるじゃないですか。やねん好き嫌いは当然あるし、いろんな考え方があつていいけど、少なくとも役者さんは自由でいて欲しい。ひとつ的作品に対するポリシーとかは、作家なり演出家なりが持ち込むのですけど、役者さんの肉体と感性は、限りなく自由であつて欲しい。いつもと失礼でけじ、かえて怖さを知つていつしゃる先輩の方の方がなんて柔軟なんだろうつて思います。若いわんの方がよっぽど頭がかたいぞ、なれてますね。若いわんの方がよっぽど頭がかたいぞ、なれてますね。

市原■ 年を重ねると、自分のことよりも垢も両方詰まつてしまくるから、どうしても自分なりのやり方でどうか、自分が出てくるでしょ、そつなるまいと破れよう流れよつとして。失敗もあまり怖くなくなるし、過程が大事になつてきます。やるだけやればひつやつて。だから、ますます純になるつて言つたらおかしつけじ。「まな板の鯉」ひか「焼けたトタン屋根の上の猫」とか、そういう言葉が好きなんですよ。真っ赤に焼けたトタンの上にぼーんと投げられて、あちちちちち、これが役者だ、な

んじね。じつはまだやつたくれ一つでまな板の上に横になると。そういうふうにしなければ、自分はたいしたことがない。年毎にじつは思つます。面田です。はあはあ

息が続かなくなつて、足ががくがくするのも、面田くなつてきます。だつてしようがなこんでもの。その無様さを見て「じつだー」ってなもんね、おはは。

共同作業の喜び

宮田■ 演劇にはじめから妙なジャンル分けがあるじゃないですか。やねん好き嫌いは当然あるし、いろんな考え方があつていいけど、少なくとも役者さんは自由でいて欲しい。ひとつ作品に対するポリシーとかは、作家なり演出家なりが持ち込むのですけど、役者さんの肉体と感性は、限りなく自由であつて欲しい。いつもと失礼でけじ、かえて怖さを知つていつしゃる先輩の方の方がなんて柔軟なんだろうつて思います。若いわんの方がよっぽど頭がかたいぞ、なれてますね。若いわんの方がよっぽど頭がかたいぞ、なれてますね。

若いわんは宮田さんは感動する。

宮田■ (スタッフの性別や年齢は気にしないが) やつぱり好きな人つて、衣装でやねんでもじだわつて。井上ひさしさんの『雪やこゑ』。女剣劇の旅回りの座長役。「赤城の山は」なつて、ゼンゼンできないのに(笑)。まな板の鯉ですね。幕開き、お風呂から出て浴衣に半纏といつじだわ。とにかくイメージがあるんですね。その女の。白粉のにおいなんか汗なんか、分からんじ、ちょっと不潔な色気がただよつていて。カツカツせつかりがぶつているからいいのくん(髪の毛)がじつちやつて、そういう女がお風呂からわろつと出てきたつていうイメージがわう、かたくなにあるんだよ。舞台稽古になるとそれがかたまってするのが樂しくてしようがない。そしたら単なる半纏が来たの。「いやだーんなの、婆娘の女と違うのよ」つて。「見るからにそつこな人じるじやない、女剣劇の旅回りのさあ」つて。衣装さんは黙つて持つて帰つて、また来るじやない。「違うのよお」。それでまた「じつへんがさ、変な色で、におつててた」つて。私も倜傥として、こんな変なこと言つて優つて嫌われるなつて。でもだめなのね、セーブが効かなくなつて。それで五回ぐりこに、じつちの身頃とじつちの身頃とじつちの袖とじつちの袖と、おもで違つ、色あせた布を接ぎ合せて持つてきてくれたの。そのときはもう涙が出て「これよーありがとー」つて。それ着たらもうー、女剣劇になつちゃうのね、つらう。そういうことをわかつて

『知的な作業のスリル』 市原悦子 × 宮田慶子

あんまりしゃべると、表現にならなくなっちゃう。
みつしやべつたら、ぜんぶ消えちやうの。

くれる人っているんですね。役者やつての喜びはですね。スタッフに支えられてわかつてもらつたつていう。私の演技の三倍くらい、その半纏で良くなつちゃうわけですね。それが一番、喜びね。ほかに役者の喜びなんてなんにもないわ（笑）。

畠田　スタッフと一緒にあります。お役作りをなさらないでいたり、衣装さんや床玉さんや「それよー」とつていつわらうたとおね本物のふうが假の…。スタッフ

「みんなで『やつたーー』って騒ぐんですね。それで、おまえも市原■やつぱり回りぬけだな。おまえもせいでね」
お題の轟うな。

畠田 ■「うつこいつ」とが出し合って泣いたり笑る現場はござりやない。畠田がうつこいつから、じゃなくてね。

市原■そつだいわら。その半纏つてじゆうふのひとなんだ
うつて思つてくれたわけでしょ。塙では「わるせえな
ら、いじめうれしいけ」ついで、「わるせえな」といふ言葉をあつた。

あ、これでも持てば、手で書いておこうともあると嬉しいんですよ。だけど、そういうやながつたわけでしょ。私もいつ捨てられるかってハラハラして。そういうのが寒いとつたしじゃね。

現実を越えるフイクションの力

市原 ■ やつぱり本は大きいですね。台本読んで魅せられ
るつて感じ」と。映画『蕨の行』で、おばあさんが死んで
しまうときに。田舎の厳しい季節の中、ぜんぶ嫁に教
えてしまうんです。種まきせいのやつて、家を守つて、こ
うやって子孫を残してやくんだつて。そういうふうの。
「おれに逢つたぐわいの山野の丘を眺めよ。やがて春と



『知的な作業のスリル』 市原悦子×宮田慶子

もなれば、雪解けの内より芽吹いたフランジの、綿毛の
渦巻きの中におれの白髪が覗いていよつ。巡りくる春に
先駆けて、魂魄こひやくとなりておめ等を守りつゝ。私、魂魄
となつてこの世の和平を願つたりね、子孫の無事を祈る
ような気持ちなんてね、これまで無かつたわ。それなの
うが、うの元回スル、もうよつてこないだ。トヨ「雪解つ

はねあの仕事しないでこのまま本屋に販売しておこうるな」つし。

市原 ■情感じゃないのね。胸がじつぱにならんこぢわな

いのね。非常に覚めててね、それでその世界にいけるのね。すばらしい本を読んで引きこまれるとそういうふうになれるんですね。作者の村田喜代子さんは芥川賞作家で、九州にじるんですよ。姥捨で山の話なんだけれど、その言葉は、方言じゃないんですね。村田さんが普遍的に作った言葉なんですね。だから格調高くてね。いい台本に行き会うと、魂が、志が、ぐううと上に上がり出すね、ハハハ。それとね、いのじゅの観ててね、言葉が多いのね。あれは退屈しからやう。もつと削いで削いで、とにかくおしゃべ

市原 ■普段は言いません。今日はもう必死でしゃべりました（一同爆笑）。お稽古になると、「この半纏、嫌だわあ」と言つてゐるだけです。

——最後に月並みですが、日本の演劇界になにか期待することはありますか。

市原■ない。あつはつは

市原悦子【いちばらえつこ】 女優。千葉県宇都宮市生まれ。劇団俳優座出身。趣味は麻雀、旅行、散歩。テレビドラマ、映画、舞台をはじめ、歌唱など、活躍は多岐にわたる。

コロンビア特集

(報告=青柳敦子)

劇団「テアトロ・ラ・カンデラリア」を主宰する演出家・劇作家・俳優・演劇指導家のサンティアゴ・ガルシア・パトリシア・アリサ

の1人である女優・演出家・劇作家・社会活動家のパトリシア・アリサ氏と、劇団創立メンバー

ショップとレクチャー。「ワークショップはディスカッションをベースにおいた集団即興創作の体験。レクチャーは、アリサ氏による「コロンビアの社会と演劇の概説」とガルシア氏による

「カンデラリアの活動の紹介」。全体を通して「カンドラリア」のボリシーである「演劇を社会に反映させる」また「社会を演劇に反映させる」姿勢が強く表れた内容だった。

本年度唯一の「プロ・アマを問わず」参加のワークショップに、演劇人を含む様々なキャラクターの、20代から70代の幅広い参加者が集まつた。参加者を小グループにわけ、ディスカッションをベースにした、2つの集団創作を行つた。

アリサ氏からのテーマは「自分たちが今感じている問題…何を演劇として取り上げたいか」。生活の中から表現したいテーマを話し合い、それを軸に作品を創つた。

ガルシア氏からの課題は小説『予告された殺人の記録』。「小説の中の何が気になったのか」「どうに引っ掛かったのか」「何に問題を感じたのか」を提出し、それを軸に作品を創つた。留



ドイツ特集

(報告=田中孝弥)

2008年11月28～12月1日 芸能花伝舎（東京）
講師 サンティアゴ・ガルシア、パトリシア・アリサ
通訳 古屋雄一郎
担当 和田喜夫、青柳敦子、椋平淳（京都）
参加者 東京WS21人（男8女13）レクチャー52人
京都WS21人（男9女12）レクチャー21人

意点は「ストーリーやシチュエーションの説明ではなく、テーマを語ること」。各班の作品発表後、それらをじっくり分析した。集団創作の最も重要なプロセスが「分析」だと両氏は強調した。日数の都合上、創作の極々入口しか体験できないのが残念だったが、「カンデラリア」の「集団創作」の手法は、参加者に強いインパクトを与えた。

レクチャーでは、「コロニアビア」という国自体の持つ矛盾の実態、それらに立ち向かう演劇的なアクション、しかし政府は利用する、という強かな活動の実態を聞いた。また、アメリカから流入する商業的な演劇がある一方で、「カンデラリア」のような劇団が市民から支持を得ている様子が熱っぽく語られた。コロンビア国

会議事務所前広場での政治的意義を再認識していきました。「ドイツ新進芸術家との交流（研究会）」では、次代のドイツ演劇界を担う演劇人の一人、レヒ氏を招きました。ドイツで生まれた16歳から23歳のトルコ系の若者6人が出演する彼女の作品『Bastard. Wahidentitäten』を映像で紹介してもらいました。アーヴィングの「アイデンティティー」の表現手法を彼女に提案してもらい、参加者とのディスカッションを通じて、《日独両国がそれぞれに抱える社会問題》も踏まえながら、意見交換を行いました。

特集の最後に行われたシンポジウムでは、《ドイツと日本の演劇交流、創造的に知り合うにはどうすればよいか》をテーマに、日独の演劇人



2008年11月7～10日 スタジオ315（大阪）
講師 ヘレーナ・ヴァルトマン、リズ・レビ
通訳 山下泰子、内山奈美（大阪）、中村有紀子（東京）
担当 堀江ひろゆき、田中孝弥、棚瀬美幸
参加者 東京WS21名（男7／女10）講演会＆シンポジウム32名
研究会17名（男7／女5）講演会＆シンポジウム45名
東京WS21名（男13／女8）講演会＆シンポジウム32名
研究会11名（男6／女5）講演会＆シンポジウム45名

現代に於ける劇場と演劇人の役割は、《観客に対する何らかの解決を与える作業》から《問題を投げかけ、問題を可視化していく作業》へと変化してきています。日独に於いても歴史的・文化的背景など違いは様々に存在しますが、グローバリゼーションの中で、共通の問題も多く抱えています。ヴァルトマン氏が語った「共有できる問題意識（それは『痛み』という言葉に置き換えても良いかも知れない）を軸にしていけば、国や言葉の壁を乗り越え、文化の違いを乗り越え、舞台と観客の境界線を乗り越え、あらゆる境界線（境界線そのもの）からも乗り越えられる可能性がある」という言葉は印象的でした。私たちは《固執》や《偏見》から離れ、《演劇》という枠自体からも自由に解き放たれ、《一人の人間》として、広く世界と創造的に知り合うことが必要であり、またその可能性を持つているのだと、強く意識づけられました。



ノルウェー特集

2008年11月22日 芸能花伝舎（東京）

講師 レーネ・テレーゼ・ティゲン

通訳 小牧游、坂手洋一

参加者 21人（男1・女20）

（報告＝青柳敦子）

レーネ・テレーゼ・ティゲン氏（劇作家・演出家・俳優）と、劇団民藝の小牧游氏（スウェーデン在住、俳優・翻訳家）によるレクチャー。ティゲン氏は劇団朋友公演『九人の女』（レーネ・テレーゼ・ティゲン／作、小牧游／訳）の演出のために来日していたが、稽古のさなか、初日間近い貴重な時間をセミナーのために割いていた。

小牧氏による基調講演、ティゲン氏によるノルウェーの演劇の状況と『九人の女』の創作プロセスのレクチャー、「九人の女」の抜粋リーディング、「イプセン・フェスティバル」に参加した燐光群の坂手洋二氏（劇作家・演出家）を交えてのトークと、盛りだくさんの構成だった。

小牧氏は基調講演で、ノルウェー、スウェーデン、スカンジナビア諸国の、文化と芸術への恵まれた支援の状況と、ティゲン氏と小牧氏そして日本を結びつけるきっかけとなったスウェーデンのストックホルム市立劇場での『九人の女』上演をめぐるいきさつを報告した。ティゲン氏は、スカンジナビア諸国でも上演されている『九人の女』の創作プロセスを、テイゲン氏の国立演劇学校在学中の教授とのやりとりや、大学院での「劇的な構造」に関する



ウクライナ特集

2008年12月22日 スタジオ315（大阪）

12月23～27日 芸能花伝舎（東京）

講師 アンドリイ・ゾルダック

通訳 七字英輔（レクチャーワークのみ）

参加者 安達紀子

WS：19人（男12・女7）

レクチャーワーク：東京34人（男20・女14）

森井睦、家田淳

大阪36人（男11・女15）

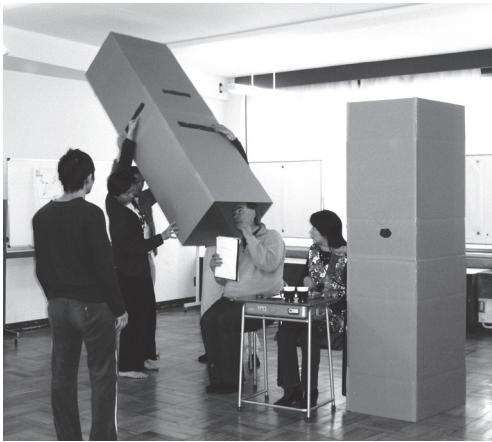
（報告＝家田淳）

研究課題、「女優の現状改善のためのセミナー」での女性たちとの出会いなど、多様な視点と様々なエピソードを絡めて語ってくれた。ティゲン氏はこの作品を書いたことで「フェミニスト」という評価を得、その結果、より深くジャンダーと社会の問題について研究を重ね、関わりをもつことになったそうだ。

休憩をはさんで、劇団朋友の有志メンバーによって『九人の女』の一部がリーディングされた後、様々な劇場での『九人の女』の舞台写真が紹介された。

トークでは「イプセン・フェスティバル」の様子が報告された。また、自称クジラ・マニアの坂手氏が「世界でノルウェーと日本だけが捕鯨国だ」という点に触れ、そこから両国のかや歴史に広がってゆく多彩な内容だった。

本企画の特色はアンドリイ・ゾルダックという演出家の際立った個性に尽きる。ワークショップ、レクチャーコンサートによる近年の演出作品の映像紹介に多くの時間を割いたが、シェイクスピアやギリシャ悲劇が見事に解体された、過激で破壊的、それでいて美しい舞台に受講者は度肝を抜かれた。講師自身も情熱の火の玉のような人柄で、時に激昂するかのようなく熱いで持論をまくしたてる。講師独自の演劇理論に沿ったエクササイズは肉体も神経も酷使する内容で、参加者はとまどいを見せながらも果敢に挑戦していた。俳優を超人的な「天上の存



在であるべきと言いく切る講師の持論は極論とも思えるが、自らを極限状況に追い込んで演じるという考え方ほどのようなタイプの演劇にも通じるものだと感じた。ワークショップの終わりに「今回のワークショップで講師から投げかけた情報は何らかの形で受講者の皆さんの中に残っていくはずだが、意味が浸透していくには30日くらいかかる。薬を飲んですぐ効くといふわけにはいかない。自分の中で情報が変化し、自分で葛藤が起きるかもしれないが、それも良いことで、前進である。」という講師の言葉が印象的だった。

演劇大学in愛知

(報告=木村繁)

2008年11月14～16日

愛知県芸術劇場小ホールほか

共催 財団法人愛知県文化振興事業団

講師 青井陽治、神谷尚吾、深津篤史、水野誠子

流山晃祥、小林七緒、松本祐子

シンポジウム・パネラー 安住恭子、はせひろいち、

木村繁 金子康雄、ほりみか、齊藤敏明

担当 トリエユウスケ

東海地方の演劇界には奇妙な現象が続いている

ます。劇作家は奇才天才がひしめきあってい
るし、AAF戯曲賞には80人の応募がある
し、長久手の劇王（日本劇作家協会東海支部主
催）は全国的な人気イベントになりつつあるし
……ところがナントナント、わが演出者協会の
若手演出家コンクールには、東海地方からの応
募者が格別に少ないのです。私たちの町はそれ
なりの都会で劇団の数もかなりあるのに、若手
演出家の顔が見えてこないというのは、な、な、
なんと！そこで今回は『演出家って何をする
人？』にテーマを絞り、演出家という得体の知
れない怪物に24時間直接触って貰おうと考え
ました。

演劇はまさに格闘技、若手演劇ライブシア
ター『岸田國士』では岸田戯曲を19才～30才の
4人の演出家に演出してもらい、3日間青井陽
治、神谷尚吾、深津篤史、水野誠子の講師が密
着、かわるがわる叱咤激励、最終日には劇場で
連続上演し、その後200人の観客の前で大激論す
るという方法をとりました。なかには演出家の
仕事について激怒する講師、反論する若手演出
家もあり、演出家とは何かをめぐり確かな手ご



演劇大学in札幌

(報告=横尾寛)

演出家養成セミナー2008報告

俳優が戯曲と向き合う一週間

「現に演劇を作る者が自らの糧となるべく企画する」というのが演劇大学札幌2003年開始時

からのスタンスだ（現在は劇団主宰者7名で実行委員会を組織）。今回の企画立案でも、多くの議論があつた。今やりたいことは？ やるべきことは？ それはここ（演劇大学）でやるべきことか？ 数々の議論を重ね、今回は私と実行委員長・清水友陽の案に落ち着いた。前回を終えて私は感じた大きな課題は、演出家が俳優に対する語る言葉のあやぶやさ・脆弱さだった。そして語る言葉のあやぶやさ・脆弱さだった。そして考える。戯曲があつて、俳優と演出家がいて演劇といわれるものが作られていく。それは本当か？ 今札幌で、戯曲と俳優と演出家という関係は成立しているのか？ 俳優はもっと戯曲を読んでみよう。優れた戯曲前に俳優が、演出家がすべきことは何か？ そんなことを考えるために『ハムレット』を選んだ。

俳優と演出家と優れた戯曲という関係、そのひとつ形を提示することができた。また『ハムレット』等の優れた戯曲がもつ「大きさ」、その戯曲に演出家として対峙する青井陽治という一人の表現者、それらを存分に垣間見ることが出来たのではないか。このことが「過性の充足感に留まることなく表現者として探求を続ける契機になれば、それは我々が今後札幌で演劇を作り続ける力になるはずだ。本講座終了後後

ゼミ」と称して3日間、参加者同士が札幌で演劇に関わる自らの問題を語り合った。

演劇大学を通して我々の行く

先をいつも考えて助言して下さ

る羊屋白玉さん、

青井陽治さん、和

田さんに最大級

演劇家・青井陽治と『ハムレット』とがつぶり向き合ってみると『ハムレット』と青井陽治と俳優の7日間。1ヶ月前の2日間のプレゼミで数点の翻訳戯曲とハムレットを紹介、戯曲読みの基礎やハムレット周辺の事象のガイドなどを用意して、1月本講座までの課題はハムレット第一独白とオフィーリア独白。本講座では、青井さんの提案で戯曲の全貌を体験するためにトム・ストップードの『15分ハムレット』を用



2009年1月12～1月18日

生活支援型文化施設「ンカリーノ（札幌）

※フレゼミニ1月29日～30日

※後セミ1月20日～22日

担当 清水友陽、横尾寛

講師 青井陽治

演出家養成セミナー2008報告



演劇大学 in 横浜

(報告=大西一郎)

2009年1月24日～2月1日 相鉄本多劇場

担当 大西一郎 ワークショップ講師 石丸だいこ、大西一郎、神田陽司、明神慈、矢野靖人、流山児祥

シンポジウム 大橋泰彦、荻野達也、木村健三 和田喜夫

首都圏初、唯一の開催地として名乗りをあげた横浜での演劇大学も5年目を迎えた。大西も委員となつて横浜舞台芸術活動活性化委員会(横浜SAC)及び横浜市市民活力推進局の共催、そして文化庁の助成を得て、本年も9日間に亘り相鉄本多劇場で開催された。流山児祥シニア演劇ワークショップ＆演出家養成セミナーをはじめとする、明神慈、矢野靖人、大西一郎の演劇系のワークショップに加えて、石丸だいこのダンスワークショップ、神田陽司の講談の演劇論的ワークショップまで6クラスとも内容は多彩で、最終日には流山児・石丸クラスの発表会、講師陣にMinge 荻野達也、大橋泰彦、木村健三、和田理事長も交えたシンポジウムも開催。終了後は劇場にて大懇親交流会も行なわれた。



地からアクセスの良い場所なので、他地域からも参加しやすいようで、今年は東北地域からの参加者のパワーも見られました。最終日には演劇制作サイト fringe プロデューサーの荻野さんをゲストに迎え、演出家達と「地域と演劇」をテーマに熱い議論が成され、客席からの闊達な発言もあり、そのまま懇親会まで盛り上がりました。

演出家養成セミナー2008報告
（報告=大西一郎）

2009年1月24日～2月1日 相鉄本多劇場

担当 大西一郎 ワークショップ講師 石丸だいこ、大西一郎、神田陽司、明神慈、矢野靖人、流山児祥

シンポジウム 大橋泰彦、荻野達也、木村健三 和田喜夫

理事会報告 篠崎光正

理事会は次の日程で開催し報告・審議を行いました。

12月28日（日）於：協会事務所・出席理事15名

①事業報告 広報部よりホームページ提案・高機能ホームページの必要性・省力化の提案 地方会員の役割提案・各地方における演劇指導ほか演劇に関する各種要望に協会の担当者として対応する新組織案を広報部が提案

②2008年度事業の報告・確認 ①若手演出家コンクールの審査経過報告および審査日程調整 ②出版 演出家の仕事（海外交流）新派経過報告

③2009年度事業の検討 ①日韓演劇フェスティバル経過報告および検討。

④その他 以上

3月9日（月）於：協会事務所・出席理事14名

①事業報告 広報部より協会誌「D」第2号発行に関する各部への原稿依頼 広報部より

ホームページ提案・ホームページ予算書提出な

らびにメールマガジン発行提案・事業部より①

日韓演劇交流セントアーリーディング経過報告

②若手演出家コンクール2008の事業報告

③出版「年鑑国際演劇交流セミナー2008」編纂に関する経過報告

④2009年度事業の検討 ①日韓演劇フェス

ティバル経過報告および交渉に関する討議

②担当より事情説明 ③韓国の現状についての

討議 ④演出家養成セミナーの提案整理ならびに状況報告 ⑤その他 以上

4月6日（月）於：協会事務所・出席理事12名

①事業報告 広報部より協会誌2号進行状況・ホームページ提案・事業部より出版物増刷について

②新年度事業助成額決定 ①若手演出家コンクール2009 ②日本の近代戯曲研修セミナー

③演出家養成セミナー2009（演劇大学）④国際演劇交流セミナー2009 ⑤出版「年鑑国際演劇交流セミナー2008」編纂 ⑥出版「演出家の仕事5 海を越えた演出家たち」演出家海外交流史⑦第1回日韓演劇フェスティバル

実行委員長・大西一郎 ②日本の近代戯曲研究セミナー 東京・名古屋・大阪 3箇所開催

予定 ③演出家養成セミナー2009 ④7月松山（担当和田）▼9月中津川（担当木村）▼11月愛知（担当木村）▼12月札幌（担当青井）▼

1月下関（担当篠崎）▼2月熊本（担当流山児）▼3月京都（担当菊川）④国際演劇交流セミナー2009▼7月韓国特集in東京、熊本（予定）（担当和田）▼7月ドイツ特集（担当菊川）

▼8月ベルギー特集（担当森井）▼10月ルーマニア特集（担当森井）▼10月カナダ特集（担当貝山）▼2月中国特集（担当菊川）⑤出版「年鑑国際演劇交流セミナー2008」（担当森井）

⑥出版「演出家の仕事5 海を越えた演出家たち」（担当ふじたほか）⑦第1回日韓演劇フェスティバル（担当和田・森井・篠本・ふじた・宮田・貝山）（制作 夏川正一 高橋俊也 平野真弓）以上

アンケート

○演出家の立場について

広報部では協会員に次の二項目のアンケートを実施しました。
自由記述「ダメ出しについて」ダメ出しで大事にしていること。ダメ出しのタイミングなど。ダメ出しに関する「だわり」を教えてください。
選択回答「演出家の立場について」舞台創作の際、役割は演出のみor演出と①作者・②翻訳・③出演・④制作・⑤舞台監督・⑥舞台美術・⑦その他を兼ねる場合がある。
協会員同士が「演劇」をどのように考えているのか、どのように創造しているのかを語るきっかけになればと思います。多くの方のご協力ありがとうございました。(回答者46名)

★ダメ出しについて

- ◎青木由里^(女)——▽①意思・集中・伝達・受信・読解・皮膚&空間感覚の向上。②心身の柔軟性・発声・活舌・瞬発力・筋力・リズム感・感情運動力を養う。▽上記に基づき、役者が自分で気づけるように質問形式でダメ出しを行なっている。
- ◎浅田直也^(男)——本当にケースバイケースです。役者のレベルもありますし、最後にまとめてダメ出しがいいながらも、自己嫌悪の連続で、ダメドリは別にして、とことん役者・スタッフと話し合うのを信条にはしていますが……。
- ◎家田淳^(女)——ダメ出しにかける時間が長くなりすぎないようにすること。自分が一方的に延々としゃべるという状況が好きじゃないので、しゃべるのはなるべく簡潔にして、稽古の中で直していく。
- ◎今泉修^(男)——練習時に、様々な演技パターンを要求する。特に相手役及び場面

- の雰囲気を如何に受けるかで、最近の若い演技者は「一人芝居」演技が多い。
- ◎うちやまきよつぐ^(男)——ダメ出しばかりでなくホメ出しあり。気付いた時にすぐ云うようにしている。役者の力量を見はからって云うようにしている。
- ◎大杉良^(男)——ダメ出しは、ダメなことを伝えるより、作品をより良くするアイデアを伝えて云うようにしている。
- ◎小川功治郎^(男)——登場人物がその場に生きていらない場合以外はあまり言いません。
- ◎小林和樹^(男)——とにかく役者に分からなくては仕様がない。従って内容によって本読みの段階から、本番の樂の日まで出す。「作品を観客に伝える役目」ということを強調する。
- ◎小林拓生^(男)——本番は俳優が演じるので、出演者の状態や性格により違います。メンタルケアもします。
- ◎昆明男^(男)——やはり、前日と初日にはていねいにダメを出します(又は出されます)。
- ◎塚田一彦^(男)——役者が理解するまででないに。しかも喋った言葉が、あとで文章となつて残るような内容の高いものであること。
- ◎園山土筆^(女)——役者が理解するまででないに。しかも喋った言葉が、あとで自身の発見。
- ◎三谷麻里子^(女)——長くなり過ぎないと。「気持ちいい」ものであること。俳優が自分で考えたことだと思えるような誘導。
- ◎三輪えり花^(女)——相手のやりたいことをできる限り尊重し、否定形の単語と文書は決して使わない。心理描写と演出の意図と解釈を伝える。
- ◎宮田慶子^(女)——「ダメ出しまーす」と云わずに「チエックしまーす」と呼びかけることにしています。
- ◎宮永あやみ^(女)——▽問題に対して、必ず解決策を見出せるようにする。▽役者

◎神澤和明^(男)——▽芝居と役に対して嘘をつかないこと、独りで芝居をしないこと、この2点ができるない時は必ず注意します。▽意味を考えずに台詞を言う演技者が増えて、困っています。

◎黒川逸朗^(男)——なるべく客観的に、自分の趣味性を押しつけないようにする事。

◎黒澤世莉^(男)——嘘をつかない。嘘はすぐばれる。もし嘘をつく場合、自分もだます。

◎鈴木一巧^(男)——ダメ出しそり、むしろ良い出しきを思つたりします。でも、ダメ出しを出さなければならないこともあります。それは本番中でも続きます。

◎藤本剛^(男)——▽役者のイメージを知りうることを優先して、先に演出(演技指導)はしない。じっくり待つ。▽ビジョンが見えてこないプラン、いきづまっていると役者から感じた時、またテキストの本筋を外れた場合、ダメ出し(止めて)を行う。流れをつかんでもらう為、ある程度シーンを返した後ダメ出しきをする。▽まず優先してダメを出すのは言葉をしつかりとらえてシーンの意味をつめて)を行なう。

◎平尾麻衣子^(女)——俳優の心に響く言葉を探すこと。自分にも相手にも嘘をつかず、いつでも全力で俳優と向かい合うこと。

◎篠本賢^(男)——多くを語りすぎて、俳優の自由な想像を限制しないように心がけ、俳優の心身が有機的に動き出す魂の一言を探しています。

◎飛野悟志^(男)——的確さ。演出としての言葉ではなく観客の想いとして俳優に伝わっているか。

◎篠崎光正^(男)——ダメ出しを理解してもらう為、言葉だけでなく動きなどあらゆるコミュニケーションツールを用いる事にしている。

◎齋藤豊治^(男)——抽象的ではなく、いかに具体的な身体的指摘ができるかがポイントだと思います。▽また俳優の資質によって、あるには厳しく、あるには褒め続けたりして、俳優が説明的な演技に陥らないように心がけています。

◎野溝さやか^(女)——基礎的な技術点以外

のダメ出しはしない。個人に対しても具体的に。作品・役をつかんで行く段階に合わせて。あくまで具体的に。抽象的でなく。女優へは「やってみせる」ことも。男優には「やってみせる」のは厳禁。(私が現役の役者であるから)。

徐々に細かい点を指摘していく。

◎飛野悟志^(男)——的確さ。演出としての言葉ではなく観客の想いとして俳優に伝わっているか。

◎宮田慶子^(女)——「ダメ出しまーす」と云わずに「チエックしまーす」と呼びかけることにしています。

◎宮永あやみ^(女)——▽問題に対して、必ず解決策を見出せるようにする。▽役者



本人が前向きに、糸口に向かっていけるようなヒントをそえる。気分でものを言わない。

◎山田和也(男)——▽ダメ出しで最も気をつけてるのは「そのダメ出しにユーモアがあるか」です。▽ダメ出しをされる人がそのダメ出しで明るい気持ちになる様に、周りで聞いている人たちも愉快な気持ちになる様に、です。▽ダメ出しのタイミングにも非常に気を使います。

▽初日までの「どのタイミングで」そのダメ出しを伝えることが最もモチベーションを高く維持することになるのか、です。

◎流山児祥(男)——▽役者の状態にこだわったダメ出しとなる。▽ダメ出しというより「役者相互の関係性」を見るのでその状態がヤバイ時。

○渡辺恒久(男)——①作品の時代背景又は、作品テーマとはずれていないかどうか。②演技とのバランス。

①(男)——「ダメ出し」という言葉は使っていないません。演出家が「正解」を持っていて、それに沿った演技を見つけよう俳優がてしまい、創造的な稽古にならないからです。俳優の力を出し切るために、指示をせずに、「与えられた環境」を伝えます。

②(男)——「嘘をつくな!」とよく言っています。リアリティーを自分(役者)の

中で創造していない場合。

③(男)——一日に、一人の俳優に対して三つ以上のダメを出さない。作品の本質にかかるダメに止め、テクニカルなダメは出来るかぎり出すことを避ける。

④(男)——アタマから否定しない。答えを言ってしまう。

⑤(男)——全体を見通しながら(自分なりに)今何が大切なことを考えながら。役者本人の経験年数など考慮しながら。役者自身が動き出した時、本来のダメ出し…かな。

⑥(男)——時間的(セリフ)にも空間的(動き)にも今そこにある ムダをなくして行くこと。そうすれば劇のエッセンスだけが残るよう。

⑦(男)——せりふ・しぐさ・タイミング(上演作品の軌道から反れるような表現が出るこだわり)でのダメ出しは別として、

上演作品の軌道から反れるような表現が出ない限りダメ出しはしない。見守り、方向性を探る。

〈無記名分〉

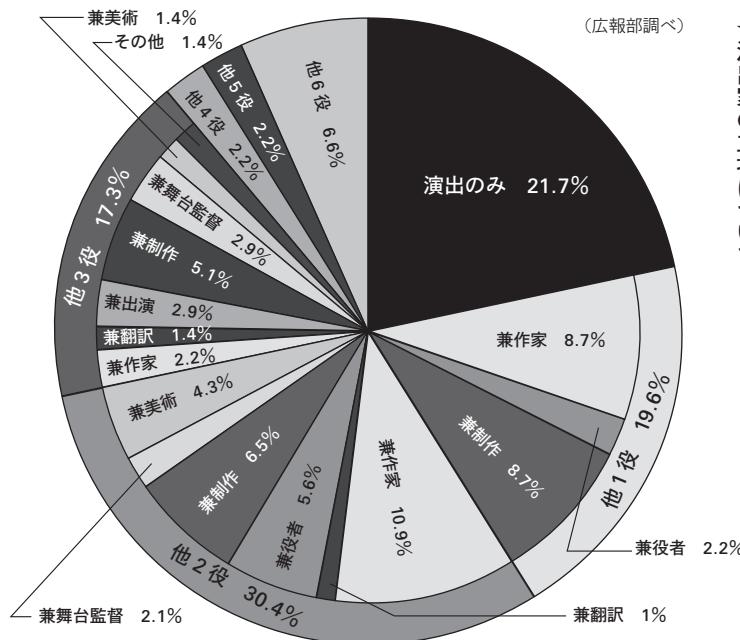
*おわび アンケート文に記名欄を設けなかつたため、無記名回答が出てしまいましたことをお詫びします(編集人)

⑧(男)——大声で怒鳴るのは、自分の存在を誇示、自己満足の証しである。台詞は相手に対する答えと心得で、自分の喋った内容を再確認するように心掛け、相手役を見ないで喋らないように。ダメ出しは稽古後から出しても効果は半減であるから進行中に出す。

⑨(女)——ダメ出しという言葉は好きでない。助言だから。けい古の時間・期間にもよるが、役者から出て来たものを大切に育てるよう努めています。

⑩(男)——俳優の創造力をフォローしてあげる。1シーンが終わることに。

★演出家の立場について



◆八面六臂の演出家たち

演出だけをしている会員は21・7%で5人に1人。5人に4人は他の役割をかねている。しかも、円グラフに示されているように、2役、3役、4役など演出以外の仕事を兼ねる会員が圧倒的に多く、演劇創造上の中心的存在になっているのが想像される。そこで、「演出と作者」を兼ねている会員が46%、同じく「演出と制作」を兼ねている会員が46%と、会員の約2人に1人が作者や製作の立場にいることがわかる。さらに、出演する会員は約3人に1人(31%)、翻訳13%、舞台監督22%、舞台美術20%、その他13%。

また、このデータから読み取れるもうひとつ現実は、経済的な制約である。つまり「演出と作者」と同率の「演出と制作」については、「演出と作者」のように創造上の必要性がない場合も想像できる。つまり「舞台監督22%」でもあきらかに、演出上は別の人格がいたほうが良いのは当然である。

今後当協会としても、このアンケートの結果を重く見て、演出家の支援策を検討する資料として活用していくたい。



部会だより

事業部

事業部の仕事の二大柱のうちの一本である「演劇大学」が、昨年度の6回（熊本・岡山・倉敷・愛知・横浜・札幌）から、今年度は更に拡大し、何と!! 7地域での実施を計画しています。2001年頃から本格的にスタートしたこの事業が、当初「年3回」の実施の形態からここまで発展してきた経緯は、ひとえに関わって下さった会員の皆様の熱意に支えられてた賜物と感じています。

「若手演出家・俳優の養成」「各地の演劇人達との親交」「各地域内での連携」等々、演劇大学がもたらすものは数々あります、何よりもまず、受講者、講師、事務局、etc. と、参加したすべての人達が、タテヨコの枠をとり払って関わり合う自由な空気こそ、「面白い! またやろう!」という言葉が出来る最大の要因であると思っています。

もう一本の柱である「若手演出家コンクール」の熱い闘いも、今年で9年目となりました。参加者も年々増え、昨年はついに全国から73名ものエントリーがあり、3月に最終審査が行われました。(宮田慶子)

国際部

「演技における身体性を様々な方法論から探る」という今年度のテーマに加え、後半のセミナーは、社会と演劇の関わりを模索し、現代社会の中において演劇が果たす役割を検証する内容のセミナーが

続いた。10月のコロンビア特集では、南

米演劇界の重鎮サンティアゴ・ガルシア氏と、パトリシア・アリサ氏を招聘し、集団創作についてのワークショップとレ

クチャード開かれ、11月には、ドイツ特派では、演出家・振付家のヘレーナ・ヴァルトマン、演出家のリズ・レビ、ドラマ

ツルグのローランド・コーエルクの三氏を招いて、現代社会の中に於いての演劇を探る様々な試みがなされた。大阪と東京で開催されたこの企画は、関西プロックの若手が推進したものであった。11月にはもう一つイブセンの國ノルウェーの現代劇をリードする劇作家、レーネ・テレーゼ・ティイゲンさんが来日されたの

を機に、22日「ノルウェーの演劇状況と

アンドリュー・ゾルダック氏による「極

限への挑戦／リスク・シアター」のワー

クシショップとシンポジウムが22日に大阪、

24日～27日まで東京で開かれた。(俳優

の肉体と感性を徹底的に鍛える独自のメ

ソード)は非常に刺激的で今年度の末尾を飾るにふさわしいものであった。(森井睦)

(担当理事 東京・東海、ブロック

(担当理事 熊本・仙台・札幌)

2009年3月末までに無事に発刊することが出来ました。ご協力下さった皆様に深く感謝いたします。

2008下半期活動の主軸は協会誌「D」の発行であった。協会活動の中で、会員の年齢差、会員の活動地域の相互距離差、など会員交流の妨げとなるさまざまな要素を、広報活動により会員の相互理解を深めるべく協会誌「D」は、発信を開始した。20ページの小冊子ながら、広報部としては、これを基軸にして読者をふやし、新会員獲得も視野に入れ、協会誌の図書館配布などを実行している。また、広報部の活動範囲と質を高める為、あらゆる協会活動の取材を始めた。年度末の若手演出家コンクールでは、はじめての本格的な取材活動を開催した。また、現在手演出家が開催され、澤山の豪華な公演が開催される中、3月理事会の承認を得たので、09年度の大きな活動課題となつた。(篠崎光正)

3月理事会の承認を得たので、09年度の3月理事会の承認を得たので、09年度の大きな活動課題となつた。(篠崎光正)

として、これを基軸にして読者をふやすし、新会員獲得も視野に入れ、協会誌の図書館配布などを実行している。また、広報部の活動範囲と質を高める為、あらゆる協会活動の取材を始めた。年度末の若手演出家コンクールでは、はじめての本格的な取材活動を開催した。また、現在手演出家が開催され、澤山の豪華な公演が開催される中、3月理事会の承認を得たので、09年度の大きな活動課題となつた。(篠崎光正)

として、これを基軸にして読

在外研修報告 羊屋白玉

2008年11月4日午後11時。
わたしの住んでたニューヨーク、イーストビレッジのアパートメントにも、とどろくような歓声が響きわたった。窓から階下をみると通りでは鍋やらバケツやらをたたきながら歩いている若者達がみえた。ニューヨーカーの友人からの電話からは、うれしさのあまり嗚咽している声だった。ずっとテレビをつけっぱなしにしていて、選挙のゆくえをみていたけど、オバマ大統領誕生の瞬間をニューヨークで味わった。あの興奮は忘れられない。一方、大統領選挙に前後して、アメリカの経済は落ち込みはじめていたから、一縷かもしれないけど、「希望」ということばがあの街にぴったりだった。しかし、現実問題、職場を解雇される友人もいたし、ブロードウェイは演目を削った。私はといえば、ダウントンにあるラママバーでのショウを準備をしていたのだけど、キャンセルするという連絡をうけた。2001年9月11日、その日もわたしはニューヨークにい

た。9・11直後も、ブロードウェイはショウを続行するという決断をしたし、ちいさな劇場も、オーラナイトライブをやるなど、奮起する様子がみえたけど、この不況では、そうもいかないようだった。2001年当時でも、アーティスト達は、ソーホーのアトリエや劇場を追い出され、ブルックリンの方へと大移動していった。そしてさらに、これから、彼らは、どうやって、活動を続けてゆくのだろうか、と、それはわたし自身のことでもあったけど、そんな想いで2009年の1月末日、わたしあは帰国した。

——去年優勝して変わったことは?
あ、うう——変わったことですか……
みんなから「優勝おめでとう」といって
いただきました。

あ、こう——広報を活発に活動してもうえると会員としてはとてもありがたいですね。名も無い若手は、協会から宣伝してもらえるだけで本当にありがとうございます。この度も大

あごう——お金ないですもん……。
そんなん殺されますわ。そんな恐ろ
しいこと言わんといてください。そ
れ相応の身分になつたらツアーリーとか
やりたいですけど……。

ないでしょか。地方におりますと
特にそのように感じました。

若手演出家コンクール2007
最優秀賞受賞記念公演
WANDERING PARTY
『饒舌な秘密』
作・演出：あらうさとし
2009年3月13（金）～15日（日）
下北沢「劇」小劇場

考えてやつたんですが、人が析るつて世界共通の行為じゃないですか。国内だけじゃなく世界に通じる演劇人種を越えても楽しんでいただける可能性を意識してます。

――協会に望むことは?

あじうさとし 劇作家・演出家。大阪府出身。同志社大学法学部卒業。広告会社にてコピーライターとして勤務の後、現在に至る。第3回公演以降全ての作品の脚本・演出を担当する。また、ラジオドラマや劇団くるみ座に脚本を提供。2005年、京都造形芸術大学情報デザイン学科特別講師大学講師。2006年より、神戸芸術工科大学メディア表現学科演技指導員。日本演出者協会主催「若手演出家」コンクール2007にて最優秀賞受賞。

「どう――お金ないですもん……。なんなん殺されますわ。そんな恐ろいこと言わんといてください。そ 相応の身分になつたらツアーやとか りたいですけど……。	う――お金ないですもん……。なんなん殺されますわ。そんな恐ろいこと言わんといてください。そ 相応の身分になつたらツアーやとか りたいですけど……。
この公演は、「若手演出家コンクール 2007」最優秀賞受賞者を記念し て、制作費の一部を日本演出者協会 が負担して行われたものです。	作・演出「あごうさとし」 2009年3月13(金)～15日(日) 下北沢「劇」小劇場

新 会員紹介

(08年6月～12月入会)



岩崎廉（いわさき・れん）

▼脚本家、作曲

和声作曲理論を古曾志洋

卒業。▼1987年劇団ABCの設立メンバーとして参加。1992年劇団Non-Bを設立。以来同劇団での作・作曲、演出作品は18作を数える。稽古ピアノを自ら弾きながら演出と音楽監督を同時にこなすという独特のスタイルで他団体作品への楽曲提供、演出にも積極的に取り組んでいる。▼作・作曲・演出作品：オリジナルミュージカル『でんちゅうでゴザル』（六会ホール）。セントラルフェスタ2007（新宿文化センター大ホール）『行けえ／イケウーメンタッパーズ』（THEATER 1010）。「道へthe future」（横須賀芸術劇場大ホール）等。

大塩哲史（おおしお・まさし）
▼早稲田大学演劇研究会を母体として結成された北京蝶々という劇団を主宰しております。2003年11月の結成以来現在に至るまで北京蝶々の全公演を演出してまいりました。若手演出家コンクール2007参加をきっかけに

介（08年6月～12月入会）

演出者協会に入会いたしました。コンクールにおける幾人もの先輩演出家の幸福な出会いが実を結び、2008年には演出者協会副理事長である流山晃祥氏と共に公演を作り上げるという有り難い経験をさせていただきました。演出者協会にはこれまで世代を超えた演出家が交流する場を提供し続けて頂きたく思います。今後ともよろしくお願ひいたします。

大杉良（おおすぎ・りょう）

▼94年劇団未来
良夢創立、主宰
劇団内外で、演出、企画、構成

脚本、イベントディレクター、演出助手など多種多様に活動。現在、劇団は休団、フリーとして活動。昨年より、新国立劇場演劇研修所にて演出助手、演出部、講師などを担当。▼主な演出：劇団主催公演『飛行機雲』『ぞめきの消えた夏』、六本木『香和』『愛知万博地球市民村・国民文化祭』、Ninjas FROM HOLLYWOOD』、イベント『六本木ヒルズのお正月』、平和祈念公演『飛行機雲』、『ぞめきの消えた夏』、六本木『香和』『愛知万博地球市民村・国民文化祭』、ントディレクター、ミュージカル『火の鳥』、『』▼その他：丹波哲郎『大靈界』演出、助手、ザ・ミッドナイトサスペンス、イベント修所修了公演『珊瑚囁』演出助手、演出部、新国立劇場『まぼろば』演出部、修所修了公演『珊瑚囁』演出助手。



大杉良（おおすぎ・りょう、

▼
04年劇團未來

良夢倉立
主客
劇団内外で、演出
企画構成
脚本、イベントディレクター、演出助手

ハリー」として活動。昨年より新国立劇場演劇研修所にて演出助手、演出部、講師などを担当。▼主な演出：劇団主催公演11作品、SHO KOSUGIプロデュース「THE

本木ヒルズのお正月』・平和祈念公演『飛行機雲』『そめきの消えた夏』・六本木『香和』・愛知万博地球市民村・国民文化祭いばらき・坂東市市民劇『風の砦』・平将門『一』▼その他・丹波哲郎『大靈界』演出助手、ザ・ミッドナイトスペインズ・イベントディレクター、ミュージカル『火の鳥』演出部・新国劇場『まほろば』演出部・升多修多子公演『糸胡麻』演出助手。

柿ノ木タケヲ（かきのき・たけを）▼自分は現在やっています。前代表が命名した格好悪すぎる団体名を引き継ぎ、今年から代表もつとめています。領収書をもらうのが恥ずかしい（笑）▼劇団所属の俳優陣は不本意ながらすべて男で構成されていて稽古場は常に男達の汗でムンムンしています。最近、俳優たちはなぜかパンツ一丁で稽古しています。自分も触発されなぜかパンツ一丁で演出しています。飯を食うためにテレビ脚本も書いていますが、舞台芸術が大好きです。「演劇に興味のない人に演劇を好きになつてもらおう」をモットーに演劇界の発展に貢献したいと思っています。若輩者ですが、よろしくお願いします!!

◆近関西の芝居に足繁く通い、表現の生える地平』5月には新作『全てに隣接するが何よりも遠く』を上演します。こども（作・林田恵里）『Voices（作・森谷めぐみ）』『銃の凍てつく温度』『足

風早孝将（かさばや・たかまさ）
▼1977年岡山県出身。大学在学中に演劇に出会い、就職後NPO法人アートファームの舞台芸術ゼミナールに参加。現在、岡山の劇団「演劇ユニット水蜜塔」で脚本・演出を行っています。▼主な演出作品『しだいに

柿ノ木タケヲ（かきのき・たけを）
牛乳」という団体の作・演出を



風早孝将（かざはや・たかまれ）

▼1977年岡
・たがまさ)

味のない人に演劇を好きにならせてもらいたい」と思っています。若輩者ですが、よろしくお願いします!!

A black and white portrait of Kenjiro Yamada, a young man with dark hair, wearing a dark suit, white shirt, and patterned tie. He is looking directly at the camera with a neutral expression.

分の中にある固定観念の固定っぷりを痛感させられています。演劇が決して盛んとはいえない岡山から新しい風を起こしてゆけばと思います。なお、風早は本名であり、私の田舎は風早だけです。

佐川大輔（さがわ・だいすけ）
▼俳優として、
劇団俳優座養成
所卒業後、D・
ディスニー、L・
アニメモバ、P・ゴーリエなど多くの海
外の演出家から演技・演出法を学ぶ。さ
らに、コンテンポラリーダンスをケイ・
タケイ氏に師事する。▼俳優、ダンサー
としてイギリス、インド、フィリピンな
ど海外での公演経験も多数。2000年
からTHEATRE MOMENTSを主宰、全
公演の構成・演出を担当。ストレートプ
レイから、身体表現、音楽性、オブジェ
クトシアターの要素まで取り入れ、観客
の想像力を刺激するトータルシアターを
作り上げている。主な演出作品にワイル
ド作『幸福な王子』、シェイクスピア作『マ
クベス』、カフカ作『変身』、坂口安吾作
『桜の森の満開の下』など。



佐川大輔（さがわ・だいすけ）

2004にて優秀賞、及び観客賞受賞。戯曲『シーチキン・バラダイス◎』ではテアトロ新人戯曲賞受賞。その他、博品館劇場での『ウルトラヒーローバトルシアター』、帯広市民オペラ『椿姫』などを演出。2007年より、俳優と観客の為の即興演劇ワークショップを開催。▼コンクールのご縁で入会させて頂きました。即興劇とシナリオ劇の二つを中心的に活動しています。ドキドキ、ハラハラに興味が在る方はぜひ一緒に。詳しくはこち
ら。 <http://wandelung.com>



全リンクダ（ゼン・リンクダ）

A portrait of Kim Hyun-joo, a South Korean actress, smiling warmly at the camera. She is wearing a dark blazer over a white blouse. The background is plain white.



野溝さやか（のみぞ・さやか）

▼中学3年生の時に「演劇大学2000（飯田）」に参加さ

各地域活動通信

札幌のあれこれ

今年1月に、演劇大学札幌は、「俳優が戯曲と向き合う一週間」と銘打ち、戯曲と俳優と演出家の関係を直面に問い直した。昨年11月にプレゼミを行ない、「ハムレット」とその他の優れた戯曲について、2日間に渡り、講師の青井陽治氏を迎えてのレクチャーを開催。その後1ヶ月半かけて、参加者は「ハムレット」を読み解く時間が与えられた。ある期間に開催されるだけではない、継続性を持った場所を目指すのが、実行委員会の目論見だ。今回は、「ハムレット」と青井陽治と俳優の7日間（夜ゼミと呼び、参加者を募る）の他、昼ゼミ（日本の戯曲を読み解く！4日間）とし、新派クリニック（参加者のリクエストに応じ、アングラーワー現在まで様々な戯曲に触れる）というものの、15時～18時まで）、個別講義（12時～15時まで）を企画。演劇大学7年間のひとつ目の節目となった。

「各々の方法論で現に創造し続けている人達に触れる体験」が出来る場所といふ考え方で、続けて来た演劇大学札幌。今この場所に何が必要かということを常に見据えて、次に繋いで行きたい。

ここ数年、劇団四季が仙台でロングラン公演を行っている。「美女と野獣」は昨年10月の開幕以来3ヶ月半で94公演が行われ、観客数は延べ約9万4000人位に達した。その8割は宮城県内からの来場。また年間6回の公演を提供している仙台演劇鑑賞会の現在のメンバーは約5600人。ピーク時と比べ6割に落ち

仙台には「観客」がいます

【清水友陽 演劇大学in札幌実行委員長】
報べ、ホームページの発行、演劇関係者の情報発信、ポータルサイトの設置などをを行う予定。今後の活動が期待される。

作品が生まれると良い。今年になり
幌演劇の現状とそこに関わる人々の漠然とした不安」に対しても「今できる事は何か?」という想いの下、札幌演劇情報ネット

演や、道外の作家や演出家との共同創作活動が目立った。様々なものを吸収して北海道に還元し、またこの場所で新たな

ターノー」、遊戯祭「ハカリーナ」、パトヘなどの演劇祭。秋の「札幌劇場祭 Theater Go Round2008」は、市内8箇所の劇場で1ヶ月間に渡り開催。40

札幌の演劇は、総結性のある企画が各劇場で行われている。昨年も、夏の教文演劇フェスティバル（札幌市教育文

込んだらしいが、それでも5600人だ。
その他にも仙台市市民文化事業団友の会、
みやぎ生協、地元デパートの鑑賞会等が

も限界がある。民間でできるところは
自力で努力したい。

新入会員があり、東海の会員数も大所帯になりつつあります。これからは事業ごとに実行委員会を作り、会員の交流を

オープ。現在22名の研修生と受講生がいる。他にも自治体の演劇事業やビジネスクール、高等学校での講師、大学での朗読講座、県外劇団の制作サポートも行っている。今後は、カフェリーデイングや高校生対象のワークショップ、演劇祭なども展開する。すべては観客づくりの下地だと考えている。市内の飲食ビルやオフィスビルの空洞化が仙台もどんどん進んでいる。改修や整備で劇場化でき的方法もきっとあるはず。自治体頼みに

相方漫劇に角れる精舎が抱えて少ない
一昨年、我々は「SENDAI一座^{アリーナ}」口
ジエクト」を立ち上げた。観客の発掘、
俳優育成、民間劇場のオープンが目的で
ある。20年以上眠っていた「白鳥ホール」

1400人の観客を集めた。この試みに賛同してくれた今まで出会いの無かつた市民観客に助けられた演劇祭だった。そもそも仙台には専用劇場が無い。多

居酒屋を会場に昨年10月から3カ月余り行われた「杜の都の演劇祭2008」（10演目計53ステージ上演）は延べ

人、週末は山形、福島、近県から20万人以上がやって来る街なのだから、現代演劇に引きこめる未知の観客が眠っている

多數の会員を抱えている
一方、地元劇団や在京劇団の仙台公演、
テレビ局や新聞社主催の大型公演さて
も集客に苦しんでいる。観客層が違うと

込んだらしいが、それでも5600人だ。
その他にも仙台市市民文化事業団友の会、
みやぎ生協、地元デパートの鑑賞会等が

劇祭はかつての
劇場ナビロフト
劇団の連続公演
家協会東海支部
家にオリジナル
それを協会所属
う、東海ならで
客も次第に増え
りホールとの共

のテーマは『演劇大学の名古屋ぶり』年ぶりに岸田國士の短

期 12月に、演劇祭

一クト 渡部ギュ
くたさじ せん

公演して下さい

が出来た。もう一つ、交流セミナーでは東京から関西に立ち寄ってくれたコロニア特集の二人の演出家は、言葉では表現できないほど、強烈な味濃い、印象深い人たちであり、麻薬が政府黙認であつたり、50000人の虐殺が行なわれる中での演劇行動をしているこの人たちで興味を覚えた。しかも日本の演出家であつた佐野研との出会い、影響によつて建築家から演劇人になつたという80歳を超える演出家には驚かされた。

現していった。忸怩たるものを持ちなかつたらではあつたが、関西ブロックでは、国際演劇交流セミナー・ドイツ特集を提案できたことが、特に嬉しいことであつた。しかも、この提案企画の中心になつた二人は、日本演出者協会から文化庁の海外研修派遣でドイツに行った田中孝弥君と棚瀬美幸さんで、その成果を出してくれたことにもなつて、興味あるワーケー

2008年度の関西で揺れ動いた事柄は、大阪の新知事による公共劇場ホールの閉鎖、売却という極端な予算削減策による強行姿勢であった。反対集会などに出席して、この運動の盛り上がりを感じながらも、新知事の強行姿勢の方が実

「前ページのつづき」直接の文化交流を

目標としたものです。日本演出者協会と韓国演劇演出家協会の共催という形ですが、演劇統括団体による初めての演劇祭

ということになります。

「韓流ブーム」とはいえ、韓国の演劇状況はほとんど知られていない状況です。演劇が日本ではまだ生活と強く結びついたものとなっていないためかもしれません。そこで、国や世代やジャンルを超えた交流の場を作ることで、多くの人に韓国の、そして日本の演劇を含めた文化に

触れて頂き、新たな対話の場を作りたいと考えました。

また、「語りたくても、語れなかつた」語る場を持てなかつた」在日の演劇人、

特に若手の演劇人に参加・協力をお願いしました。ロビーでは、戯曲のリーディング、小説や詩の朗読、演奏、唄、舞踊などをして絵画の展示、舞台の映像上映などを企画しました。ともかく、一人でも多くの方に集まって頂ければと強く願っています。(文責・和田喜夫)

第1回 日韓演劇フェスティバル

6月1日(月)～6月30日(火) 於あうるすぽっぽ

〈劇場上演作品〉

『ブラインド・タッチ』作:坂手洋二 訳:木村典子 演出:キム・ガンボ [4日間～6日間]

『ちゃんぽん』作:ユン・ジョンファン 訳:津川泉 演出:森井睦 [10日間～13日間]

『壁の中の妖精』原作:福田善之 脚色:ペイ・サムシク 演出:ソン・ジンチエク

[16日間～18日間]

『七山里』作:イ・ガンペク 訳:秋山順子 演出:福田善之 [21日間～23日間]

『狂ったキッス』作:チョ・ガヌファ 訳:木村典子 演出:鐘下辰男 [26日間～29日間]

〈ロビー企画〉韓国戯曲リーディング

『愛を探して』作:キム・ガヌリム 翻訳:石川樹里 演出:家田淳 [3日間、9日間]

『離婚の条件』作:ユン・デソン 翻訳:津川泉 演出:梅田宏 [6日間、14日間]

『鳥たちは横断歩道を渡らない』作:キム・ミョンファ 翻訳:石川樹里

演出:左藤慶 [20日間、23日間]

『無駄骨』作:チャン・ヂン 翻訳:青木謙介 演出:中野志郎 [21日間、29日間]

『野原にて』作:イ・ガンペク 翻訳:津川泉 演出:宮田慶子 [6日間]

※豊島区の中高校によるリーディング



日韓演劇交流センター主催『韓国現代戯曲ドラマリーディングIV』より上から『統一エクスプレス』(撮影=真野芳喜)、右上『凶家』(撮影=宮内勝)、右下『こんな歌』(撮影=真野芳喜)



20



編集後記

▼第2号発行は予想通り苦難の連続。協会の公式記録誌としての重要性を説きながら、各担当者のご協力のもと珠玉の原稿が集まり広報部一同感謝しています。広報部員といつても全員演出家、慣れない作業、苦勞様。(篠崎光正)▼「秋田で芝居をやる」と帰郷した彼は今どうしているのでしょうか。地方の声もしっかり届けていきたいと思います。(篠本賢)▼編集部員、ちょっと家族みたいになってしまった。私は平尾小川のお姉ちゃん気分です。篠崎篠本両氏がどっちがどっちかわからぬけど両親。(三谷麻里子)▼取材にご協力くださった方々、本当にありがとうございました。今後も亀の歩みで頑張ります!(平尾麻衣子)▼

今回から本格的な取材活動を開始しました。次回も色々な所に取材に行きますが、どうかひとつ、優しくしてください。(小川功治郎)
「飲酒アンケートについて」アンケートの趣旨説明が不十分であったため、編集部で再検討し次号に掲載させていただきます。(編集人)

日本演出者協会の運営は協会費で行われております。会費未納の方は、納入をよろしくお願い致します。

日本演出者協会会員数	
男	女
458人 (±0)	108人 (+6)